

コース		必修選択の別	科目名	単位数	総授業時間数	講師	実務教員授業
国際貿易	2	必修	マーケティング戦略	2	30	藤重 武三	○
国際貿易	2	必修	経営戦略	2	30	藤重 武三	○
国際貿易	2	必修	組織論Ⅰ	2	30	森内 尚博	○
国際貿易	2	必修	組織論Ⅱ	2	30	森内 尚博	○
国際貿易	2	必修	消費者行動論	2	30	高橋 雅巳	○
国際貿易	2	必修	ビジネスプレゼンテーション	4	60	高橋 雅巳	○
国際貿易	2	必修	経営シミュレーション	4	60	高橋 雅巳	○
国際貿易	2	必修	卒業演習	6	90	高橋 雅巳	○
国際貿易	2	選択	ホスピタリティ経営論Ⅰ	2	30	小池 勝也	○
国際貿易	2	選択	ホスピタリティ経営論Ⅱ	2	30	小池 勝也	○
国際貿易	2	選択	会計学総論Ⅰ	2	30	鈴木 啓悟	○
国際貿易	2	選択	会計学総論Ⅱ	2	30	鈴木 啓悟	○
国際貿易	2	選択	企業統治論Ⅰ	2	30	白石 一憲	○
国際貿易	2	選択	企業統治論Ⅱ	2	30	白石 一憲	○
国際貿易	2	選択	ビジネス英語Ⅲ	2	30	京塚 在裕美	
国際貿易	2	選択	ビジネス英語Ⅳ	2	30	京塚 在裕美	
国際貿易	2	選択	外国語演習Ⅲ	2	30	町 隆美	
国際貿易	2	選択	外国語演習Ⅳ	2	30	町 隆美	
国際貿易	2	選択	貿易実務Ⅰ	2	30	金森 尚人	○
国際貿易	2	選択	貿易実務Ⅱ	2	30	金森 尚人	○
国際貿易	2	選択	財務分析Ⅰ	2	30	加藤 淳	
国際貿易	2	選択	財務分析Ⅱ	2	30	加藤 淳	
国際貿易	2	選択	統計学Ⅰ	2	30	加藤 淳	
国際貿易	2	選択	統計学Ⅱ	2	30	加藤 淳	
国際貿易	2	選択	課程演習Ⅰ（経営研究学科）	2	30	高橋 雅巳	○
専門必修科目合計				24	360		
専門選択科目合計				34	510		
合計				58	870		

年度	2024	学期	前期
科目名	マーケティング戦略	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	藤重 武三		

#### 講義概要

- ・企業の全体戦略とマーケティング戦略の立案において、新規事業や新規商品の企画・開発は重要な要素であるが、そのアプローチ方法や考え方について講義をする
- ・多くの事例を紹介することで分かりやすい内容にする
- ・毎回教材を配布し、教材には演習問題や空欄問題を設けて、一方通行でない双方向の質疑応答を重視する

#### 達成目標

- ・新規の事業や商品の企画プロセスの流れを理解すると共に競争戦略との関係も理解する
- ・企画プロセスにおいては、顧客ニーズを深掘りする事だけでなく、潜在的ニーズの発見も重要な事を理解する
- ・実際の企画を身近な具体例で考えることで理解を深める

#### 学修成果

- ・新しい事業や商品の企画手法を理解して、なぜそのような商品が販売されているのかが理解できるようになる
- ・商品企画の各プロセスにおける考え方を実践する演習を通じて、商品企画のプロセスを実践できるようにする

#### 事前学習

前回講義の復習

#### 事後学習

演習問題と解く

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	・企業戦略の全体と事業企画・商品企画の流れ ・企業のビジョンについて
第2回	・企業のビジョンと社会的責任 ・マーケットインとは？
第3回	・ニーズの種類と具体例
第4回	・ニーズ調査の方法
第5回	・ニーズ調査の落とし穴 ・マーケットインの考え方の問題点
第6回	・プロダクトアウトとは？ ・垂直思考と水平思考
第7回	・水平思考による商品企画 ・水平思考の限界
第8回	・インサイトの発見による商品企画 ・インサイトの発見方法
第9回	・インサイトの事例 ・インサイトの発見についての演習
第10回	・インサイトの発見についての演習 ・企業のビジョンと商品企画
第11回	・シーズと商品企画 ・ニーズとシーズと商品企画
第12回	・機会と商品企画
第13回	・事業企画、商品企画 総合
第14回	総復習
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	経営戦略	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	藤重 武三		

#### 講義概要

- ・企業戦略について深掘りした講義とする
- ・戦略については、複合化、多角化、事業ポートフォリオ、事業立地、差別化や独自性、好循環といったポイントについて講義する
- ・講義は、理論と共に多くの事例を入れて、わかりやすい内容にする
- ・毎回教材を配布し、教材には演習問題や空欄問題を設けて、一方通行でない双方向の質疑応答を重視する

#### 達成目標

- ・企業における戦略の全体像及びそれに関連する企業活動の内容を理解する
- ・各戦略フレームワークや理論の相関関係や企業戦略の基礎を理解する
- ・理論の応用を身近な具体例で考えることで理解を深める

#### 学修成果

- ・各戦略策定の考え方を理解することで、基本的な戦略立案ができるようになる
- ・戦略的な思考法を身につける事で、企業の課題発見と発見した課題の解決に寄与できるようになる

#### 事前学習

前回講義の復習

#### 事後学習

演習問題と解く

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	複合戦略
第2回	プロダクト・ライフ・サイクルと事業ポートフォリオ
第3回	多角化戦略
第4回	事業ポートフォリオ
第5回	事業ポートフォリオ
第6回	事例研究
第7回	事業立地について
第8回	競争戦略における差別化（独自性）
第9回	競争戦略における差別化（独自性）
第10回	中小企業における戦略
第11回	複合戦略における好循環
第12回	中小企業における戦略
第13回	戦略策定総合
第14回	総復習
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	組織論 I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	森内 尚博		

講義概要

経営組織論の歴史的な変遷を学ぶことで、組織のパフォーマンスを向上させるためのマネジメントの考え方や方法を学ぶことで、ハイパフォーマンス組織を作るために、どのような行動が求められるかを理解し、実践の中で活用可能な知識・スキルを習得する。

達成目標

経営者・管理者の視点で、組織のパフォーマンス向上に向けた先人たちの知恵を体系的に学習することで、組織のリーダーとして活躍するための組織運営に関する基本知識を習得する。

学修成果

経営者・管理者の視点を学習することで、組織の中で活躍するために必要な視点や行動様式等を理解することで、組織の一員として自ら考えて、適格な行動ができるようになる。

事前学習

前回講義の復習（配布資料の見直し）

事後学習

宿題を通してテーマの振り返り

授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション、自己紹介、将来の目標
第2回	組織論を学ぶ重要性と前期授業の全体像の説明
第3回	組織の基本的な構造（法人の形態、組織の体制）について学習する
第4回	古典的組織論（テイラー、ファヨール、ウェーバー）について学習する
第5回	新古典的組織論（メイヨー、マグレガー～マズローまで）について学習する
第6回	近代的組織論（バーナード、サイモン、サイアート＝マーチ）について学習する
第7回	適応的組織論（バーンズ＝ストーカー、ウッドワード 等）について学習する
第8回	戦略的組織論（チャンドラー、アンゾフ、ポーター）について学習する
第9回	その他の経営組織形態（京セラのアメーバ経営）について学習する
第10回	社会的組織論（CSR、SDGs への取組み）について学習する
第11回	協働における組織文化の重要性とマネジメントの仕方について学習する
第12回	経営資源としての情報・知識のマネジメントについて学習する
第13回	情報化時代における他組織との組織間ネットワークについて学習する
第14回	前期の総復習（経営者・管理者の視点による組織論）
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	組織論Ⅱ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	森内 尚博		

#### 講義概要

組織論Ⅰで学習した理論を踏まえて、組織の協働を推進するための具体的・実践的なスキル・テクニックを様々なケース事例（経営者や企業）を通して学習すると共に、組織の一員として、周囲から評価される人材になるための心構え、習慣を身に付ける。

#### 達成目標

様々なケース（論文、書籍等）を通して、対人スキルやセルフマネジメント方法を学習することで、周囲から評価される人材となり、ビジネスシーンで活躍するための基礎を身に付ける。

#### 学修成果

経営者・管理者の視点を学習することで、組織の中で活躍するために必要な視点や行動様式等を理解することで、組織の一員として自ら考えて、適格な行動ができるようになる。

#### 事前学習

前回講義の復習（配布資料の見直し）

#### 事後学習

宿題を通してテーマの振り返り

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	後期講義のオリエンテーション（講義内容の全体像の説明）
第2回	環境の変化に対応したイノベーションを産む組織作りについて学習する
第3回	組織変革の必要性和組織変革に向けたプロセスについて学習する
第4回	HBRの論文（コッターの組織変革のキーワード）を元に、組織のイノベーションの推進ポイントを学習する
第5回	HBRの論文（良い仕事とは？）を元に、組織の中で求められる仕事とは何かを学習する
第6回	HBRの論文（健全な関係作り）を元に、組織の一員として周囲との関係作りについて学習する
第7回	HBRの論文（若手リーダーの役割）を元に、チームリーダとしての振る舞いを学習する。
第8回	ドラッカーのマネジメントから管理の原則を学習する
第9回	「生きている会社、死んでいる会社」を元に、活性化された組織のポイントを学習する
第10回	先人たちのマネジメント（安藤百福、本田宗一郎等）
第11回	HBR（部下と上司の職務を設計する方法）を元に、業務分担の考え方を学習する
第12回	近江商人の哲学（三方よし）を「たねや」のケースを元に学習する
第13回	HBR（組織変革のためのデジタルマインドセット）を元に、DX時代のビジネススキルについて学習する
第14回	後期授業の総復習
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	消費者行動論	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	金森 尚人		

講義概要

経済が時代とともに変化するのと同じように、消費者の心理や行動も変化してきている。本講義では、消費者行動の歴史をもとに、様々なモデルを用いて消費者心理を学んでいく。また、どのように消費者へアプローチしていくか、マーケティング的視点も用いながら理解を深めていく。

達成目標

「消費」とは何か、購買プロセスやライフスタイルの変化が与える影響は何かということを実例を用いながら学び、今後、どのようにしてビジネスに活かしていくことができるかを考えることを目標としていく。

学修成果

消費者の購買行動を中心に学ぶことで、消費者心理を理解できるようになる。そのため、接客業の仕事に就いた際に顧客視点で物事を考えて行動できるようになる。

事前学習

なし

事後学習

学習内容復習

授業計画

回	授業計画
第1回	消費者行動論とは①・消費者行動論の歴史
第2回	消費者行動論とは②・ELMモデル
第3回	消費者が行動に至るまでの過程① (AIDMA・AISAS)
第4回	消費者が行動に至るまでの過程② (AISEAS・SIPS・DUALAISEAS)
第5回	ケーススタディ①
第6回	高度経済成長期の消費者行動
第7回	バブル期前後の消費者行動
第8回	平成の消費者行動①
第9回	平成の消費者行動② (コト消費・トキ消費・イミ消費)
第10回	非計画購買と衝動購買
第11回	ケーススタディ②
第12回	ライフサイクルアプローチ・ライフコースアプローチ
第13回	試験前対策①
第14回	試験前対策②
第15回	確認テスト

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	適宜、プリント等を配布
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	ビジネスプレゼンテーション I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	高橋 雅巳		

#### 講義概要

1 年次に学んだ基本的なプレゼンテーションの知識とスキルを、実践で活用できる能力を養うために講義を進めていきます。2 年次の前期の進路決定活動に有効な自己 PR や企業を受験する際の企業研究に必要な知識を養うために、就職活動を題材としたテーマを中心に、プレゼンスキルを学んでいきます。

#### 達成目標

自身の自己 PR を簡潔かつ有効に行うための総合的なプレゼンテーションスキル（題材の選び方、資料作成、話し方）を習得します。また、企業研究において、必要な情報収集の方法や研究内容等を学び、プレゼンテーションに活かすことを目標とします。

#### 学修成果

自己 PR や企業研究をプレゼンテーションスキル向上のための題材とすることで、実際の就職活動における面接試験やグループディスカッションに合格することを成果とします。

#### 事前学習

自己 PR や志望理由作成のための事前情報収集

#### 事後学習

自己 PR や志望理由作成後のプレゼン資料作成と履歴書、エントリーシート作成等

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方等）ケーススタディ①
第 2 回	ビジネス文書の書き方について（メール）1
第 3 回	ビジネス文書の書き方について（企画書）2
第 4 回	自己 PR 作成のためのプレゼンテーション、資料作成①
第 5 回	自己 PR 作成のためのプレゼンテーション、資料作成②
第 6 回	自己 PR 作成のためのプレゼンテーション、資料作成②
第 7 回	企業研究と志望理由作成のためのプレゼンテーション、資料作成①
第 8 回	企業研究と志望理由作成のためのプレゼンテーション、資料作成②
第 9 回	企業研究と志望理由作成のためのプレゼンテーション、資料作成③
第 10 回	企業研究と志望理由作成のためのプレゼンテーション、資料作成④
第 11 回	企業研究と志望理由作成のためのプレゼンテーション、資料作成⑤
第 12 回	グループディスカッション、実戦形式その①
第 13 回	グループディスカッション、実戦形式その①
第 14 回	グループディスカッション、実戦形式その③
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	ビジネスプレゼンテーションⅡ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	高橋 雅巳		

#### 講義概要

今までに学んだプレゼンテーションの知識やスキルを、実際のビジネスで有効に使えるように講義を進めます。特にチームでのプレゼンテーションについて学習し、全員が共通のテーマに沿ってケーススタディを学び、グループで討論し、プレゼンテーションを作成し発表します。その中で、社会に出た時に必要なコミュニケーション力や、相手を納得させるための論理的な発言など、高度なテクニックを学んでいきます。

#### 達成目標

チームプレゼンテーションを行うにあたって、情報収集、資料作成、プレゼンテーションの構成、その他必要な作業をチーム内で分担しつつ、最後はチームとして一つのプレゼンテーションにまとめ上げることを目標とします。

#### 学修成果

チームでのプレゼンテーションの企画、準備、発表を通じて、実社会や企業において必要なプレゼンテーションの実施が可能となります。また、授業におけるチーム内のコミュニケーションが、実際の仕事においても有効となります。

#### 事前学習

チームプレゼン資料作成に必要な情報収集

#### 事後学習

授業内で実施した資料作成等の見直しや修正作業

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション（授業の進め方等）、プレゼンテーション作成のための共通テーマの説明
第2回	プレゼンテーション作成のためのグループ分けとグループメンバー内の共通理解について
第3回	プレゼンテーション作成作業、個人作業&チーム作業①
第4回	プレゼンテーション作成作業、個人作業&チーム作業②
第5回	プレゼンテーション作成作業、個人作業&チーム作業③
第6回	プレゼンテーション作成作業、個人作業&チーム作業④
第7回	プレゼンテーション作成作業、個人作業&チーム作業⑤
第8回	チームプレゼンテーション中間発表と評価作業①
第9回	チームプレゼンテーション中間発表と評価作業②
第10回	チームプレゼンテーション修正作業と最終プレゼン資料作成①
第11回	チームプレゼンテーション修正作業と最終プレゼン資料作成②
第12回	チームプレゼンテーション最終発表と評価作業①
第13回	チームプレゼンテーション最終発表と評価作業②
第14回	チームプレゼンテーション最終発表と評価作業③
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	経営シミュレーション I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	町 隆美		

#### 講義概要

本講義では、1年生で学んだ経営、マーケティング、財務関連知識及び2年生で学んだ経営戦略、組織論などの知識を活かし、グループワーク演習を通じて企業経営のシミュレーションを行います。その中で、企業における意思決定能力やデータ分析能力の向上を図ります。

#### 達成目標

意思決定能力、データ分析能力、問題発見・解決能力を習得します。特に内部環境の変化と経営上の問題点についての分析力を高め、実践的な意思決定方法の習得を目標とします。

#### 学修成果

ビジネスに必要な意思決定能力、データ分析能力、問題発見・解決能力を習得することで、将来ビジネスに携わるようになったときに直面する様々な場面における対応力が身につきます。

#### 事前学習

なし

#### 事後学習

学習内容復習

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	経営シミュレーション講義の概要説明 「BG21」ルール説明
第2回	練習（初級編） 仕入 販売シミュレーション（意思決定）
第3回	練習（初級編） 第1期 結果分析 第2期 仕入・販売（意思決定）
第4回	練習（初級編） 第2期 結果分析 問題点の発見と解決策
第5回	本演習（初級編） 第1期 仕入・販売シミュレーション（意思決定）
第6回	本演習（初級編） 第1期 結果分析 第2期 仕入・販売（意思決定）
第7回	本演習（初級編） 第2期 結果分析 中間報告レポート作成
第8回	本演習（初級編） 第3期 仕入・販売（意思決定）
第9回	本演習（初級編） 第3期 結果分析 第4期 仕入・販売（意思決定）
第10回	本演習（初級編） 第4期 結果分析 通期分析
第11回	本演習（初級編） 通期 最終報告レポート作成
第12回	結果報告演習（初級編） チームプレゼンテーション準備①
第13回	結果報告演習（初級編） チームプレゼンテーション準備②
第14回	結果報告演習（初級編） チームプレゼンテーション 本発表
第15回	確認テスト

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	適宜、プリント等を配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	経営シュミレーションⅡ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	町 隆美		

#### 講義概要

企業がマネジメントすべき対象が「モノ」から「コト」へ変化してきている。本講義では「サービス」と「ホスピタリティ」の違いを理解し、利他的な行動が企業経営に与える影響について考える。また、高度なサービスやホスピタリティも持つ企業の事例を基に、その企業文化や経営戦略について考察する。

#### 達成目標

企業経営において重要な「サービス」と「ホスピタリティ」の本質的な違いを理解する。そして、サービスやホスピタリティに対する考え方が企業経営に影響を与える影響を理解する。

#### 学修成果

自らが企業の一員となって顧客と接する際に、WIN-WINの関係構築のために、企業側と顧客側双方の視点を理解し、顧客のために「ホスピタリティ」を発揮できる人材となる。

#### 事前学習

なし

#### 事後学習

学習内容復習

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	講義ガイダンス なぜ「ホスピタリティ経営論」を学ぶのか？
第2回	「社会のサービス化とは」 モノ消費からコト消費、イミ消費の時代へ
第3回	「商品としてのサービス」 サービスとは何か？
第4回	「サービス品質とは？」 サービス品質の特徴と品質基準
第5回	サービスとホスピタリティの違い ホスピタリティの定義とサービスとの関係
第6回	「組織文化とホスピタリティ」 ホスピタリティが生まれやすい企業文化とは？
第7回	「ホスピタリティ産業の未来」 現状と今後の課題
第8回	①業界・職業研究／「旅行業界」の仕事について
第9回	②業界・職業研究／「バス・鉄道・航空業界」の仕事について
第10回	③業界・職業研究／「旅館・ホテル業界」の仕事について
第11回	④業界・職業研究／「テーマパーク」の仕事について
第12回	⑤業界・職業研究／「飲食・小売り業界」の仕事について
第13回	⑥業界・職業研究／「冠婚葬祭業界」の仕事について
第14回	講義のまとめ（期末試験前の振り返り）
第15回	確認テスト

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	適宜、プリント等を配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	関連書籍、新聞、Webサイトなどから適宜引用
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	卒業演習 I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	高橋 雅巳		

#### 講義概要

本講義では、Japan as No.1 と謳われた日本的経営について考察していく。日本的経営方法は現在の日本企業にも踏襲されている部分も多い。本校卒業後、日本企業に就職する学生にとっては、理解しておかなければならないシステム、考え方を解説していく。

#### 達成目標

日本の企業文化を理解するとともに、企業の海外進出のフェーズが理解できるようになること。そして、自国に進出している日系企業について分析できるようになる。

#### 学修成果

本講義を受講することで、日本企業文化が理解でき、自身が日本企業で働く際に対応できる知識が身につくようになる。

#### 事前学習

なし

#### 事後学習

学習内容復習

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション 日本的経営とは何か。
第2回	日本的経営 1) 人的管理について
第3回	日本的経営 2) 組織の制度と構造
第4回	日本的経営 3) 従業員の意識
第5回	日本的経営 4) 経営戦略
第6回	日本的経営 5) 日本の産業構造について
第7回	中間テスト
第8回	日本企業の海外進出について 1) 戦後の日本経済史（為替を中心）
第9回	日本企業の海外進出 2) 海外進出の段階について
第10回	日本企業の海外進出 3) 海外進出の方法
第11回	日本企業の海外進出 4) 企業の海外戦略
第12回	日本企業の海外進出 ケーススタディ①SONY
第13回	日本企業の海外進出 ケーススタディ②NISSAN
第14回	日本企業の海外進出 ケーススタディ③ヤクルト
第15回	確認テスト

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	適宜、プリント等を配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	卒業演習Ⅱ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	高橋 雅巳		

#### 講義概要

経済が時代とともに変化するのと同じように、消費者の心理や行動も変化してきている。本講義では、消費者行動の歴史をもとに、様々なモデルを用いて消費者心理を学んでいく。また、どのように消費者へアプローチしていくか、マーケティング的視点も用いながら理解を深めていく。

#### 達成目標

「消費」とは何か、購買プロセスやライフスタイルの変化が与える影響は何かということをもとに事例を用いながら学び、今後、どのようにしてビジネスに活かしていくことができるかを考えることを目標としていく。

#### 学修成果

消費者の購買行動を中心に学ぶことで、消費者心理を理解できるようになる。そのため、接客業の仕事に就いた際に顧客視点で物事を考えて行動できるようになる。

#### 事前学習

なし

#### 事後学習

学習内容復習

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	消費者行動論とは①・消費者行動論の歴史
第2回	消費者行動論とは②・ELMモデル
第3回	消費者が行動に至るまでの過程① (AIDMA・AISAS)
第4回	消費者が行動に至るまでの過程② (AISEAS・SIPS・DUALAISEAS)
第5回	ケーススタディ①
第6回	高度経済成長期の消費者行動
第7回	バブル期前後の消費者行動
第8回	平成の消費者行動①
第9回	平成の消費者行動② (コト消費・トキ消費・イミ消費)
第10回	非計画購買と衝動購買
第11回	ケーススタディ②
第12回	ライフサイクルアプローチ・ライフコースアプローチ
第13回	試験前対策①
第14回	試験前対策②
第15回	確認テスト

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	適宜、プリント等を配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	卒業演習Ⅲ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	高橋 雅巳		

#### 講義概要

現代のビジネス・スキルに不可欠となっている簿記の知識をさらに一歩高め、なぜそのような会計処理を行うのかといった理由や会計処理の違いによって生じる長所、短所などを理解することにより、会計の基本から実務で活用する技術までを解説する。

#### 達成目標

企業では、簿記のスキルだけでなく規則や法律の知識が必要になる。また、正しい報告を行うために適切な会計処理についてりかいし、真実な会計報告とは何かを理解できるようにする。

#### 学修成果

財務諸表がどのように作成され、何を報告するのか、だれに報告するのかを確認し、なぜ必要なのかを企業内外の理解できるようにする。

#### 事前学習

なし

#### 事後学習

学習内容復習

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	会計学とは 数量・単価に関する計算 個別法 先入先出法
第2回	平均法(移動平均法 総平均法) 最終仕入原価法
第3回	売価還元法 商品評価損 企業会計原則 継続性の原則
第4回	固定資産 取得原価 耐用年数 残存価額 備忘価値 定額法 新定額法
第5回	旧定率法 250%定率法 200%定率法 定率法の長所と短所
第6回	級数法 生産高比例法 取替法 法定耐用年数
第7回	引当金の定義と種類 貸倒引当金 一般債権
第8回	貸倒懸念債権 破産更生債権等の引当金設定
第9回	損益計算書の作成 勘定式と報告式 売上高の部
第10回	損益計算書の作成 売上原価 販売費および一般管理費
第11回	損益計算書の作成 営業外損益 特別損益項目
第12回	損益計算書の作成 総合問題演習1 初級編
第13回	損益計算書の作成 総合問題演習1 中級編
第14回	損益計算書の分析 収益性の分析 2社比較
第15回	確認テスト

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	適宜、プリント等を配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	ホスピタリティ経営 I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	小池 勝也		

#### 講義概要

一般的に「ホスピタリティ」とは、「おもてなし」や「心配り」などサービスの延長線上にあるものとして混同、誤解されている場合が多い。本講義では、サービスとホスピタリティの明確な違いを理解し、「相手の立場になって考え行動する」という対人関係のマネジメント能力を身に付ける。

#### 達成目標

ビジネスにおいて抽象的、曖昧に使用されているサービスとホスピタリティの違いを理解する。また、ロボット化やAI化が急激に進展するビジネス社会において、肉体労働、頭脳労働に加え、人間だけが行うことのできる感情労働の重要性を再認識する。

#### 学修成果

個人としてだけでなく、組織行動の中でホスピタリティの重要性を理解、実践できるようになることで、学生がどのような職業についても、個々のステークホルダーと良好な関係性を築き、組織に貢献できる人材となる。

#### 事前学習

ホスピタリティに関する具体的な事例を調べる

#### 事後学習

講義で学んだことを、自分の生活やアルバイトに当てはめて考察し実践する

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	講義オリエンテーション なぜ「ホスピタリティ」を学ぶのか？
第2回	ホスピタリティの起源／ホスピタリティはどこから生まれたのか？なぜ生れたのか？
第3回	「サービス」と「ホスピタリティ」の違い／ サービスは技術、ホスピタリティは対人関係のマネジメント能力
第4回	ホスピタリティの5要素／「関与」「共感」「敬意」「誠実」「利他」
第5回	ホスピタリティの要素①「関与」について／顧客の状況に関心を持つ＝顧客をよく知る
第6回	ホスピタリティの要素②「共感」について／顧客の気持ち（喜怒哀楽）を感じ取る
第7回	ホスピタリティの要素③「敬意」について／顧客の文化や価値観を尊重する
第8回	ホスピタリティの要素④「誠実」について／私利私欲をまじえず、真心をもって顧客や物事に対する
第9回	ホスピタリティの要素②「共感」について／顧客の気持ち（喜怒哀楽）を感じ取る
第10回	ホスピタリティの要素③「敬意」について／顧客の文化や価値観を尊重する
第11回	ホスピタリティの要素④「誠実」について
第12回	ホスピタリティの要素⑤「利他」について／顧客の役にたとうとする（利己と利他の違い）
第13回	ホスピタリティが経営に与える影響／ビジネスにおけるホスピタリティとは関係性のマネジメント能力
第14回	講義のまとめ／期末試験前の振り返り（重要な語句・考え方の復習）
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	特に指定せず、適宜、プリント等を配布
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	ホスピタリティ経営Ⅱ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	小池 勝也		

#### 講義概要

当たり前すぎて見過ごされがちな「人を大切にする経営」について学ぶ。知識や情報、感情をコントロールし、他者との「信頼」に基づいたコミュニケーションの在り方や、人間だけが持つ他者への「共感」という心の動きに注目し、これからの企業人として持つべきホスピタリティ能力とそれを資源とするホスピタリティ経営について考察する。

#### 達成目標

ビジネスにおいては、顧客とのエンゲージメント（信頼関係と愛着で結ばれた絆）の構築が不可欠である。本講義では、感情的知性が強く求められる「感情労働」に従事する際のサービス、ホスピタリティとその心構えを身に付ける。

#### 学修成果

決められた事を決められたとおりに実践するサービルの技術（1対多数の技術）と、個々のケースによって臨機応変に対応するホスピタリティ（1対1の関係構築能力）の違いを理解し場面に応じて適切に対応できるようになる。

#### 事前学習

ホスピタリティに関する具体的な事例を調べる

#### 事後学習

講義で学んだことを、自分の生活やアルバイトに当てはめて考察し実践する

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	経営におけるホスピタリティの必要性を理解する ホスピタリティ経営論Ⅰ（前期履修済み）の復習
第2回	AI化が進む現代社会における感情労働の拡大について 働き方の急激な変化を理解する
第3回	感情的知性「EI」とは何か？なぜ「EI」が重要なのか？ 仕事における感情表現の重要性を理解する
第4回	共感の三タイプについて理解する 認知的共感、情動的共感、共感的行動
第5回	顧客に提供する三つの価値について理解する 経済的価値、機能的価値、感情的価値
第6回	サードプレイスとは何か？ 職場でも家庭でもない、人々が気軽に集う第三の場所
第7回	感情労働におけるコミュニケーションの特質 同時性、不可分性、不確定性、無定量性
第8回	感情労働と心の商品化 感情労働に求められる働き方とは
第9回	「接客」の特質 非接客活動と接客活動
第10回	感情労働の未来 感情的知性が求められるホスピタリティ
第11回	私利私欲をまじえず、真心をもって顧客や物事に対する
第12回	「リーダーシップとホスピタリティ」 ホスピタリティを発揮するリーダーシップとは？
第13回	ホスピタリティと貢献 ホスピタリティとは他者への貢献
第14回	講義のまとめ／期末試験前の振り返り（重要な語句・考え方の復習）
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	特に指定せず、適宜、プリント等を配布
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	会計学総論 I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	鈴木 啓悟		

#### 講義概要

1 年次に学んだ簿記の知識を生かし、企業会計原則をはじめとした簿記会計における会計処理の根拠となる規定を学習する。特に、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の作成の根拠・仕方を詳細に学び、かつ単なる会計原則の暗記や抽象的解釈にならないように、仕訳や財務3表の作成の仕方を、図解や例題問題を交えて学習理解を深める。また、理解度の確認のために質疑応答による双方向の講義進行に努める。

#### 達成目標

1 年次の簿記・会計処理の方法論から、財務3表の根拠と作成方法を学びかつ、企業における決算の意義である「ステークホルダー」に対する「アカウンタビリティ」の重要性を理解できるようになる。

#### 学修成果

簿記・会計処理の方法論から、財務3表の根拠と作成方法を学ぶことで、様々な企業における仕訳から決算までの「会計実務」に役立つと同時に、財務・会計の基本知識の習得で「ビジネス会計検定試験3級」の資格獲得に生かせる。

#### 事前学習

講義内容にある会計・勘定科目の用語理解とテキスト内の計算式の練習 (0.5h)

#### 事後学習

講義内容で学んだ会計・勘定科目の用語理解とテキスト内計算式の練習 (1h)

#### 授業計画

回	授業計画		
第1回	第1章 「財務諸表とは」	第1・2節 貸借対照表のしくみ	会計の基本プロセスと財務諸表分析
第2回	第1章 「財務諸表とは」	第3・4節 財務諸表の体系と開示媒体	会社法と金融商品取引法の目的
第3回	第2章 「貸借対照表」	第1節	貸借対照表のしくみ
第4回	第2章 「貸借対照表」	第2節	資産とは
第5回	第2章 「貸借対照表」	第3節	負債とは
第6回	第2章 「貸借対照表」	第4節	純資産とは
第7回	第3章 「損益計算書」	第1節	損益計算書のしくみ
第8回	第3章 「損益計算書」	第2節	損益計算書のルール
第9回	第3章 「損益計算書」	第3節	売上総利益
第10回	第3章 「損益計算書」	第4節	営業利益とは
第11回	第3章 「損益計算書」	第5節	経常利益とは
第12回	第3章 「損益計算書」	第6節	税引前当期純利益とは
第13回	第3章 「損益計算書」	第7節	当期純利益とは①
第14回	第3章 「損益計算書」	第7節	当期純利益とは②
第15回	期末試験		

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	大阪商工会議所
タイトル	ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級
出版社	中央経済社

#### 参考書

著者名	大阪商工会議所
タイトル	ビジネス会計検定試験 公式過去問題集3級
出版社	中央経済社

年度	2024	学期	前期
科目名	会計学総論 I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	鈴木 啓悟		

講義概要

現代のビジネス・スキルに不可欠となっている簿記の知識をさらに一歩高め、なぜそのような会計処理を行うのかといった理由や会計処理の違いによって生じる長所、短所などを理解することにより、会計の基本から実務で活用する技術までを解説する。

達成目標

企業では、簿記のスキルだけでなく規則や法律の知識が必要になる。また、正しい報告を行うために適切な会計処理についてりかいし、真実な会計報告とは何かを理解できるようにする。

学修成果

財務諸表がどのように作成され、何を報告するのか、だれに報告するのかを確認し、なぜ必要なのかを企業内外の理解できるようにする。

事前学習

なし

事後学習

学習内容復習

授業計画

回	授業計画
第 1 回	会計学とは 数量・単価に関する計算 個別法 先入先出法
第 2 回	平均法(移動平均法 総平均法) 最終仕入原価法
第 3 回	売価還元法 商品評価損 企業会計原則 継続性の原則
第 4 回	固定資産 取得原価 耐用年数 残存価額 備忘価値 定額法 新定額法
第 5 回	旧定率法 250%定率法 200%定率法 定率法の長所と短所
第 6 回	級数法 生産高比例法 取替法 法定耐用年数
第 7 回	引当金の定義と種類 貸倒引当金 一般債権
第 8 回	貸倒懸念債権 破産更生債権等の引当金設定
第 9 回	損益計算書の作成 勘定式と報告式 売上高の部
第 10 回	損益計算書の作成 売上原価 販売費および一般管理費
第 11 回	損益計算書の作成 営業外損益 特別損益項目
第 12 回	損益計算書の作成 総合問題演習 1 初級編
第 13 回	損益計算書の作成 総合問題演習 1 中級編
第 14 回	損益計算書の分析 収益性の分析 2 社比較
第 15 回	確認テスト

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	適宜、プリント等を配布
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	企業統治論 I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	白石 一憲		

#### 講義概要

2006 年の商法改正で企業統治が法制化され、2015 年にコーポレートガバナンス・コードが設定された。このように比較的新しい仕組・制度であり、本講義では様々な実例を交えて、経営陣の暴走はなぜ起こるのか？企業としてどのように取り組むべきか、という基本的な考え方を学ぶ。

#### 達成目標

経営陣を監視するステークホルダーの役割責任とは何か？その中でも特に株主や社外取締役と経営陣の利害関係を把握した上で、企業統治の有効性と課題を理解できるようにする。

#### 学修成果

就職活動を行う際に対象となる企業のコーポレートガバナンス体制を調べることで、その企業のガバナンスは効果的な体制になっているかを判断することができるようになる。

#### 事前学習

前回の授業内容を復習した上で次回の授業に出席する

#### 事後学習

不明点や疑問などを整理し次回の授業で質問・確認する

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	「企業統治論概要」 ステークホルダーとは誰か？その役割責任は何か？
第 2 回	「企業を支配するのは誰か？」 株主支配論、経営者支配論、金融支配論の論点について
第 3 回	「企業の不祥事Ⅰ」 東芝の経営陣の不正はなぜ見逃されたのか？
第 4 回	「モラルハザード」 株主と経営陣の利害関係の対立について
第 5 回	「エージェンシー理論」 モラルハザードが起きる要因は何か？
第 6 回	「前半講義の振り返り」 これまでの講義内容のまとめ（中間試験に向けた準備）
第 7 回	「中間テスト」 第 1 回～第 5 回の講義内容の理解度を確認する
第 8 回	「リスクマネジメント」 モラルハザードに対するリスクマネジメントとは
第 9 回	「企業の不祥事Ⅱ」 日産自動車の経営陣の不正はなぜ見逃されたのか？
第 10 回	「上場企業のガバナンス体制」 ガバナンスコードと上場について
第 11 回	「非上場企業のガバナンス体制」 非上場企業のガバナンス体制とその効果について
第 12 回	「海外のコーポレートガバナンス①」 アメリカ・ドイツ・北欧諸国のガバナンス体制
第 13 回	「海外のコーポレートガバナンス②」 韓国・中国のガバナンス体制
第 14 回	「これまでの講義内容のまとめ」 中間テスト以降の講義内容の振り返り
第 15 回	「期末試験」 企業統治の実際と課題に関する理解度を確認する

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	新聞、Web サイトなどから適宜引用
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	企業統治論Ⅱ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	白石 一憲		

講義概要

企業の暴走を防ぐためには経営陣に対する監督強化だけでなく、そこで働く従業員の法令やルールの遵守を強化することも非常に重要となってくる。そこで企業統治論の一環として企業運営に関わる主要な法令の理解と、コンプライアンス違反事例を通して企業組織の基本的な対応を学ぶ

達成目標

実際に日本企業で働く際に、どのような言動がコンプライアンス違反になるのか、自分自身がコンプライアンス違反を起こさないようにするために、どのような言動に注意すべきか？を理解できるようになる

学修成果

実際に日本企業で働く際に、自分自身がコンプライアンスを遵守した働き方ができるようになる。また上司や周りの同僚のコンプライアンス違反を発見した場合、自分自身はどのような行動を起こすべきか？判断できるようになる。

事前学習

前回の授業内容を復習した上で次回の授業に出席する

事後学習

不明点や疑問などを整理し次回の授業で質問・確認する

授業計画

回	授業計画
第1回	「コンプライアンスの概要」 なぜ人は不正に走るのか？
第2回	「労働法」 36協定や過労死ラインの理解と解雇のルール
第3回	「パワハラ・セクハラ」 パワハラ・セクハラの定義と実例
第4回	「不正競争防止法」 燃費偽装やリコール隠しの背景とその実例
第5回	「独占禁止法」 カルテル・談合の禁止理由とその実例
第6回	「前半講義の振り返り」 これまでの講義内容のまとめ（中間試験に向けた準備）
第7回	「中間テスト」 第1回～第5回の講義内容の理解度を確認する
第8回	「知的財産法①」 産業財産権の種類とそれぞれの実例
第9回	「知的財産法②」 著作権の種類とそれぞれの実例
第10回	「金融商品取引法①」 インサイダー取引や虚偽記載について
第11回	「金融商品取引法①」 企業の法律違反による業績悪化とその後の再生について
第12回	「個人情報保護法」 個人情報の定義と情報漏えいの実例
第13回	「海外のコンプライアンス違反」 欧米やアジアのコンプライアンス状況について
第14回	「これまでの講義内容のまとめ」 中間テスト以降の講義内容の振り返り
第15回	「期末試験」 コンプライアンスの実際と課題に関する理解度を確認する

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	新聞、Web サイトなどから適宜引用
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	ビジネス外国語Ⅲ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	京塚 在裕美		

#### 講義概要

TOEIC L&R テストは日常生活やグローバルビジネスにおける活きた英語の力を測定する、世界共通のテストである。本講義では、TOEIC L&R テストの各パートの出題形式に慣れながら、500 点以上取得に必要な基礎的な語彙や文法項目について学習する。

#### 達成目標

日本の中学校 3 年間で学習すべき、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法について理解をすると共に、TOEIC L&R テストの各パートの出題傾向を理解する。

#### 学修成果

500 点以上取得を目標とし学習する事で、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法を身につける事が出来る。学習した語彙や文法を使用して、英語で簡易なコミュニケーションを取る事が出来る。

#### 事前学習

学習予定の語彙、文法項目、パートについて予習

#### 事後学習

学習した語彙、文法項目、パートについて見直し

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	英語の基本 1
第 2 回	英語の基本 2
第 3 回	英語の基本 3
第 4 回	英語の基本 4
第 5 回	Chapter 1: be 動詞の文／否定文／疑問文
第 6 回	Chapter 2: 一般動詞の文／否定文／疑問文
第 7 回	Chapter 3: 一般動詞（三単現）の文／否定文・疑問文
第 8 回	Chapter 4: 疑問詞を使った be 動詞の疑問文
第 9 回	Chapter 5: 現在進行形の文／否定文・疑問文
第 10 回	Chapter 6: 一般動詞の過去形の文／否定文・疑問文
第 11 回	Chapter 7: be 動詞の過去形の文／否定文・疑問文
第 12 回	復習: Chapter 1 - 2
第 13 回	復習: Chapter 3 - 4
第 14 回	復習: Chapter 5 - 6
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	濱崎潤之輔
タイトル	中学英語からやり直す TOEIC L&R テスト超入門
出版社	アスク

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	ビジネス外国語Ⅳ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	京塚 在裕美		

#### 講義概要

TOEIC L&R テストは日常生活やグローバルビジネスにおける活きた英語の力を測定する、世界共通のテストである。本講義では、TOEIC L&R テストの各パートの出題形式に慣れながら、500 点以上取得に必要な基礎的な語彙や文法項目について学習する。

#### 達成目標

日本の中学校 3 年間で学習すべき、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法について理解をすると共に、TOEIC L&R テストの各パートの出題傾向を理解する。

#### 学修成果

500 点以上取得を目標とし学習する事で、英語のコミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法を身につける事が出来る。学習した語彙や文法を使用して、英語で簡易なコミュニケーションを取る事が出来る。

#### 事前学習

学習した語彙、文法項目、パートについて見直し

#### 事後学習

学習した内容の復習

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	Chapter 8 : 過去進行形の文 / 否定文・疑問文
第 2 回	Chapter 9 : 未来を表す will の文 / 未来を表す be going to の文
第 3 回	Chapter 10 : 助動詞の can / その他の助動詞
第 4 回	Chapter 11 : to 不定詞の名詞的用法・動名詞 / 形容詞的用法 / 副詞的用法 / 応用パターン
第 5 回	Chapter 12 : There be 構文
第 6 回	Chapter 13 : 原級を使った比較の文 / 比較級の文 / 最上級の文
第 7 回	Chapter 14 : 受動態 (受け身) の文
第 8 回	Chapter 15 : 完了・結果・経験・継続を表す現在完了形の文 / 現在完了進行形の文
第 9 回	Chapter 16 : 現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法
第 10 回	Chapter 17 : 関係代名詞の that・who・whom / 関係代名詞の which・whose
第 11 回	Chapter 18 : 原形不定詞の文
第 12 回	Chapter 19 : 仮定法過去の文
第 13 回	Quarter 模試・解説
第 14 回	復習 : Chapter 8 - 19
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験 : 70% 小テスト・課題等 : 30%

#### 教科書

著者名	濱崎潤之輔
タイトル	中学英語からやり直す TOEIC L&R テスト超入門
出版社	アスク

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	学習予定の語彙、文法項目、パートについて予習

年度	2024	学期	前期
科目名	外国語演習Ⅲ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	町 隆美		

#### 講義概要

日本語を第二外国語として学ぶ者向けの講義である。卒業後に日本の企業で働く際に必要なビジネスで使用する日本語の語彙・表現を増やしていく。本講義においては、就職活動に必要な一般常識を含む文書作成能力、表現力、コミュニケーション力を習得していく。

#### 達成目標

就職活動におけるEメール作成、送付文書作成、電話応対ができるようになること。練習問題や新聞雑誌などビジネス関連語彙の習得及び、適切な使用ができるようになる。

#### 学修成果

日本語検定問題を行うことで、語彙力、表現力が向上することが期待できる。また、BJT ビジネス日本語能力テストにおける「J1」の取得を目指す。

#### 事前学習

日本国内で取り上げられているニュースについて事前に調べておく。

#### 事後学習

授業で学んだニュースについて、さらに調べて理解を深める

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション 本講義の目的・目標/実力チェック
第2回	Eメール② 結び表現/「署名」の作成/
第3回	Eメール③ 届いたメールに返信する(面接日確定/変更)
第4回	Eメール④ 自分からメールを送信する(問い合わせ・履歴書添付)
第5回	Eメール④ 自分からメールを送信する(問い合わせ・履歴書添付)
第6回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題(文法①)解説
第7回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題(読解①)解説
第8回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題(聴解①)解説
第9回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 模擬テスト①
第10回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題(文法②)解説
第11回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題(読解②)解説
第12回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題(聴解②)解説
第13回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 模擬テスト②
第14回	総復習
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	宮崎 道子(監修), 瀬川 由美
タイトル	BJT ビジネス日本語能力テスト 読解 実力養成問題集
出版社	スリーエーネットワーク

年度	2024	学期	後期
科目名	外国語演習Ⅳ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	町 隆美		

#### 講義概要

日本語を第二外国語として学ぶ者向けの講義である。専門学校卒業後の社会に出てから必要となる実践的な日本語の中で、特に接客表現について学びます。特に状況に合わせたアウトプットができるようロールプレイを多用し、定着を図っていく。

#### 達成目標

あらゆる業種・職種において必須であるビジネスマナー、仕事上のルールなどを再確認し、敬語・接遇用語・ビジネス用語など実社会の実務で使用する日本語が使えるようになる。

#### 学修成果

インプットで使用する「サービス接遇検定」問題を解くことで、語彙力、表現力が向上することが期待できる。その結果、同検定3級レベルの知識が身につく。

#### 事前学習

配布プリントの予習

#### 事後学習

授業内容の復習

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	ガイダンス なぜ接客・接遇が大切なのか
第2回	接客・接遇の基本 接客・接遇、それぞれの意味
第3回	仕事上の日本語の特徴 クッション言葉・マナー
第4回	接客・接遇現場において誤った言葉遣い 使ってはいけないNG言葉
第5回	ビジネス敬語のルールとマナー① 敬語・接遇用語
第6回	ビジネス敬語のルールとマナー② 社会人として必須なマナー
第7回	「聴き方」の基本と応用 信頼される聴き方のポイント
第8回	電話対応の基本と応用① 電話対応のポイント
第9回	電話対応の基本と応用② 場面別電話対応の仕方
第10回	クレーム対応の基本と応用① クレームはなぜ起こるのか、クレーム対応の流れ
第11回	クレーム対応の基本と応用② クレーム対応の心構え・注意点
第12回	接遇を理解するための3要素とは 「気づく」「聴く」「届ける」
第13回	お客さまを迎える心構えと対応コツ
第14回	復習
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

#### 参考書

著者名	戸田久実 著
タイトル	「ゼロから教えて接客・接遇」
出版社	(かんき出版)

年度	2024	学期	後期
科目名	財務分析 I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	鈴木 啓悟		

#### 講義概要

2 年次前期で学んだ会計学総論の知識を生かし、財務諸表分析の関係者、基本体系や分析結果の判断、基礎データを知り財務諸表分析の基本を学習する。特に、成長性及び伸び率、安全性・収益性・キャッシュフロー・一株当り・一人当り分析を詳細に学び、かつ単なる財務諸表分析の暗記や抽象的解釈にならないように図解や例題問題を交えて学習理解を深める。また、理解度の確認のために質疑応答による双方向の講義進行に努める。

#### 達成目標

財務諸表 3 表の成長性及び伸び率、安全性、収益性、キャッシュフロー、一株当り、一人当りの分析の意義と計算方法を学ぶことで、実際の日本の業界・企業ごとの優劣を比較することや将来予測の手法を身に着けることができる。

#### 学修成果

財務 3 表の分析の意義と計算方法を学ぶことで、様々な業界、企業における「会計実務」に役立つと同時に、財務・会計の基本知識の習得で「ビジネス会計検定試験 3 級」の資格獲得に生かせる。

#### 事前学習

講義内容にある財務分析の用語理解とテキスト内の計算式の練習 (0.5 h)

#### 事後学習

講義内容で学んだ財務分析の用語理解とテキスト内の計算式の練習 (1 h)

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	第 1・2 節 財務分析とは、財務諸表分析の関係者と対象
第 2 回	第 3・4 節 財務諸表分析の基本体系、分析結果の判断のための基準
第 3 回	第 5・6 節 基本分析：百分比財務表分析、分析のための基礎データ
第 4 回	第 7 節 成長性および伸び率の分析 会社は伸びているか①
第 5 回	第 7 節 成長性および伸び率の分析 会社は伸びているか②
第 6 回	第 7 節 成長性および伸び率の分析 会社は伸びているか③
第 7 回	第 8 節 安全性の分析 支払い能力を算定しよう①
第 8 回	第 8 節 安全性の分析 支払い能力を算定しよう②
第 9 回	第 8 節 安全性の分析 支払い能力を算定しよう③
第 10 回	第 8 節 安全性の分析 支払い能力を算定しよう④
第 11 回	第 10 節 収益性の分析 利益を稼ぐ能力はどうか①
第 12 回	第 10 節 収益性の分析 利益を稼ぐ能力はどうか②
第 13 回	第 10 節 収益性の分析 利益を稼ぐ能力はどうか③
第 14 回	第 10 節 収益性の分析 利益を稼ぐ能力はどうか④
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	大阪商工会議所
タイトル	ビジネス会計検定試験 公式テキスト 3 級
出版社	中央経済社

#### 参考書

著者名	大阪商工会議所
タイトル	ビジネス会計検定試験 公式過去問題集 3 級
出版社	中央経済社

年度	2024	学期	後期集中
科目名	財務分析Ⅱ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	鈴木 啓悟		

#### 講義概要

本講義では、1年生で学んだ経営、マーケティング、財務関連知識及び2年生で学んだ経営戦略、組織論などの知識を活かし、グループワーク演習を通じて企業経営のシミュレーションを行います。その中で、企業における意思決定能力やデータ分析能力の向上を図ります。

#### 達成目標

意思決定能力、データ分析能力、問題発見・解決能力を習得します。特に内部環境の変化と経営上の問題点についての分析力を高め、実践的な意思決定方法の習得を目標とします。

#### 学修成果

ビジネスに必要な意思決定能力、データ分析能力、問題発見・解決能力を習得することで、将来ビジネスに携わるようになったときに直面する様々な場面における対応力が身につきます。

#### 事前学習

なし

#### 事後学習

学習内容復習

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	経営シミュレーション講義の概要説明 「BG21」ルール説明
第2回	練習（初級編） 仕入 販売シミュレーション（意思決定）
第3回	練習（初級編） 第1期 結果分析 第2期 仕入・販売（意思決定）
第4回	練習（初級編） 第2期 結果分析 問題点の発見と解決策
第5回	本演習（初級編） 第1期 仕入・販売シミュレーション（意思決定）
第6回	本演習（初級編） 第1期 結果分析 第2期 仕入・販売（意思決定）
第7回	本演習（初級編） 第2期 結果分析 中間報告レポート作成
第8回	本演習（初級編） 第3期 仕入・販売（意思決定）
第9回	本演習（初級編） 第3期 結果分析 第4期 仕入・販売（意思決定）
第10回	本演習（初級編） 第4期 結果分析 通期分析
第11回	本演習（初級編） 通期 最終報告レポート作成
第12回	結果報告演習（初級編） チームプレゼンテーション準備①
第13回	結果報告演習（初級編） チームプレゼンテーション準備②
第14回	結果報告演習（初級編） チームプレゼンテーション 本発表
第15回	確認テスト

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	適宜、プリント等を配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	統計学 I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	加藤 淳		

#### 講義概要

近年、統計学は様々な学問や産業分野において、その統計データの活用を如何に行って分析結果を導き出して、様々な判断を可能にしていくのかという社会的なニーズが高まっている。統計データを的確に処理でき、得られた結果を正確に理解、解釈していくために必要な知識を学ぶ。

#### 達成目標

統計学の基本的考え方となる「客観的」な解釈の基礎となる平均概念を徹底し、そこから偏差や分散、共分散、相関係数などを学習していき、散布図を用いた相関分析を実際に計算しレポート作成まで行えるようになる。

#### 学修成果

身の回りに実際にある統計データを見て、客観的な解釈を平均概念をもとにその相関性の有無や相関のトレンド(正の相関または負の相関)、その相関の強弱に至るまで深く理解出来るようになる。

#### 事前学習

配布プリントの中から、次回の学習項目をしっかりと予習する。30分程度

#### 事後学習

各回の学習内容をしっかりと復習する。30分程度

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	講義ガイダンス 統計学の学習と準備について
第2回	統計学とはどういうものなのか、また何故必要になるのか
第3回	さまざまな統計分析の理論的な背景について
第4回	統計分析の理論的な背景から分析法の適用について学ぶ
第5回	データの数量化 主観的データの数量化について
第6回	各統計データへの客観視 平均値についての考え方及び計算方法
第7回	平均値の表記 一般式を $\Sigma$ や $n$ などの文字を用いて表現する
第8回	統計データ 平均値を用いて偏差を求め、平均値からのズレについて学ぶ
第9回	統計データ 分散の考え方と求め方について
第10回	統計データ 標準偏差の考え方と求め方について
第11回	統計データ 共分散の考え方と求め方について
第12回	統計データ 散布図の読み取り方と作成のしかた
第13回	統計データ 相関係数を用いた相関分析の考え方と求め方について
第14回	統計データ 相関分析の考え方と求め方について 相関分析によるレポートの作成方法について
第15回	期末試験：試験実施

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	適宜、授業中にプリントを配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	必要に応じて紹介
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	統計学Ⅱ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	加藤 淳		

#### 講義概要

前期に学習した相関図、相関分析を基本とし、既知データの範囲から未知データの範囲までを考える回帰分析を学習する。回帰分析を行う上で、既知データの信頼度が重要となる為、フェイクデータやサンプル数の不足、偏りのあるデータなどについて、それぞれの判断の仕方、扱い方を深く学ぶ。

#### 達成目標

相関分析と回帰分析との共通性や相違点を深く理解して、それぞれの分析を1つの統計データに対して総合的に行い、得られた分析結果から考察を行い、レポート作成まで出来るようにする。

#### 学修成果

身の回りにある様々な統計データに対して、多角的視点からの相関分析及び回帰分析を行えるようになる。また分析の結果に対する信頼度に対しての原因を考察出来るようになる。

#### 事前学習

配布プリントの中から、次回の学習項目をしっかりと予習する。30分程度

#### 事後学習

各回の学習内容をしっかりと復習する。30分程度

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	前期での学習内容の復習と後期の学習の概要について
第2回	単回帰分析 説明変数 と目的変数について
第3回	単回帰分析を行う上での最小2乗法の考え方
第4回	単回帰分析 単回帰直線のグラフ化について
第5回	単回帰分析 既知のデータから未知のデータについて
第6回	単回帰分析の信頼度についての考察 データの偏りについて
第7回	単回帰分析の信頼度についての考察 フェイクデータの有無
第8回	単回帰分析の信頼度についての考察 サンプル数の妥当性など
第9回	相関係数の2乗と決定係数の関係 決定係数の求め方
第10回	単回帰分析による統計データのレポート作成について
第11回	説明変数が1つの時の単回帰分析と、説明変数が複数の時の重回帰分析との使い分け
第12回	2×2クロス集計表を用いた独立性の検定 具体例と計算演習
第13回	m×nクロス集計表を用いた独立性の検定 具体例と計算演習
第14回	区間推定の考え方 平均値・不偏分散・標準偏差
第15回	期末試験：試験実施

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	
タイトル	適宜、授業中にプリントを配布
出版社	

#### 参考書

著者名	
タイトル	必要に応じて紹介
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	貿易実務 I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	金森 尚人		

#### 講義概要

貿易実務の基礎概念と概要を紹介し、「貿易実務検定試験 C 級」に必要な基礎知識を習得する。国際貿易の重要性を認識し、貿易の基本的な概念を理解させる。日本の貿易政策や国際貿易体制について解説し、日本がどのように貿易を展開しているかを理解。輸入手続きや関連法規について詳細に解説し、実務レベルでの手続きを理解する。貿易契約書や貿易条件について学び、貿易契約の基本的な内容と取引条件を理解する。

#### 達成目標

貿易実務の基本概念を理解し、輸入手続きや貿易契約書について実務レベルでの知識を身につける。また「貿易実務検定 C 級試験」に必要な基礎知識を身につけ、実務に必要なコミュニケーション能力、交渉力、貿易英語、世界の文化、ビジネス習慣を学ぶ。

#### 学修成果

貿易実務検定試験 C 級に合格のために必要な基礎的な知識と技能を修得し、貿易実務に必要なコミュニケーション能力、交渉力、英語力、世界の文化、ビジネス習慣を身につける。輸入手続きや関連法規についての理解を深める。

#### 事前学習

毎講義終了時に次回の教科書予習を指示、「貿易実務検定 C 級試験」問題の宿題 貿易英語構文暗記

#### 事後学習

貿易英語構文と貿易英語用語の暗記、授業開始時に発表

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	貿易実務の概要と基礎と概念の紹介 「貿易実務検定試験 C 級」に必要な基礎知識を習得。
第 2 回	日本の貿易政策と国際貿易体制の概要 日本の主要な貿易パートナー国と貿易動向の分析
第 3 回	輸入手続きと関連法規の解説 「貿易実務検定試験 C 級」の必須知識を身につける。
第 4 回	貿易契約書と貿易条件の理解 「貿易実務検定試験 C 級」における重要な概念を理解し、応用力を養う。
第 5 回	関税と関連する輸入手続きの詳細 「貿易実務検定 C 級試験」過去問を解き、応用力を養う。
第 6 回	貿易リスク管理と国際保険の概要 「貿易検定 C 級試験」過去問を解き、保険条件、貿易保険英語を学ぶ
第 7 回	海上輸送と船荷証券の取り扱い 「貿易検定 C 級試験」過去問を解き、船荷証券、3 大船積み書類を解説
第 8 回	航空貨物輸送と航空運賃の基礎 「貿易検定 C 級試験」過去問を解き、海上輸送、航空輸送の相違点を解説
第 9 回	国際物流とサプライチェーン管理の重要性 マーケティングの見地からの重要性を解説
第 10 回	貿易のデジタル化と電子商取引の動向 デジタル社会での貿易ビジネスの変化を解説
第 11 回	日本の主要な輸出品目とその市場分析 現在の貿易取引状態から市場分析
第 12 回	日本の主要な輸入品目とその供給源の分析 現在の貿易取引状態から市場分析
第 13 回	輸出企業と輸入企業の実務事例の紹介 世界の政治、経済状況から外国為替相場を開設し、輸出入の現状を分析
第 14 回	貿易実務に関するケーススタディとグループディスカッション 前期講義のフィードバックなど
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	片山立志
タイトル	貿易実務の本
出版社	成美堂出版

#### 参考書

著者名	
タイトル	貿易検定 C 級試験 過去問
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	貿易実務Ⅱ	単位	2単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	金森 尚人		

#### 講義概要

貿易実務におけるリスク管理やコンプライアンスに焦点を当て、「貿易実務検定試験C級」における高度な知識を身につけます。貿易紛争やその解決方法について学び、「貿易実務検定試験C級」に合格すべく、問題解決能力を向上させる。貿易関連の金融取引や支払い手続きについて学び、実務的な知識を修得する。貿易協定や自由貿易協定に焦点を当て、「貿易実務検定試験C級」の範囲に沿った理解を進める。

#### 達成目標

貿易実務検定試験C級合格に向け、知識と技能を習得し、実務レベルでの問題解決能力を向上させる。貿易実務におけるリスク管理やコンプライアンスの重要性を理解し、貿易関連の紛争解決や金融取引について高度な知識を獲得する。

#### 学修成果

貿易実務検定試験C級資格獲得のため必要な高度な知識と技能を身につけ、複雑な貿易手続きやリスク管理に関する理解を深め、実務での活用が可能な能力を獲得する。金融取引や政府支援策に関する高度な知識を習得し、実務レベルでの貿易活動を遂行できる能力を身につける。

#### 事前学習

毎講義終了時に次回の教科書予習を指示、「貿易実務検定C級試験」問題の宿題 貿易英語構文暗記

#### 事後学習

授業時に学んだ貿易英語構文と貿易英語用語の暗記、次回授業開始時に発表

#### 授業計画

回	授業計画
第1回	貿易実務におけるリスク管理とコンプライアンス 金融リスク、物流リスク、法務リスク
第2回	貿易紛争と紛争解決のメカニズムの解説 交渉と協議、国際機関への申し立て、制裁や報復措置の導入
第3回	貿易関連の金融取引と支払い手続きの考え方 「貿易検定C級試験」過去問題を解き、金融取引、支払い手続きの実務
第4回	貿易協定と自由貿易協定の影響 市場アクセスの拡大、産業構造の変化環境への影響
第5回	輸出入業務における文化的側面と留意点 「貿易実務C級検定試験」過去問より検証
第6回	日本の輸出入関連組織とその役割の紹介 貿易振興機構 (JETRO)
第7回	貿易実務におけるコミュニケーション戦略とスキル ビジネス英語におけるコミュニケーション能力の向上
第8回	環境貿易と持続可能な開発目標 (SDGs) の関連性
第9回	技術革新と貿易の未来への影響 アセアンと東アジアのビジネス展望
第10回	日本の貿易における地域的特性と課題 依存度の高い貿易、高度な技術と付加価値の輸出、貿易バランスの悩み
第11回	貿易におけるデータ分析とビジネスインテリジェンスの重要性 市場動向の理解、競争力の獲得とリスク管理
第12回	輸出入ビジネスにおけるマーケティング戦略 国際市場で競争力を持ち、販売を促進するための計画やアプローチ
第13回	貿易実務に必要なコミュニケーション、ビジネスメール、貿易英語、交渉力を解説し、英語でのビジネス英語を指導
第14回	貿易実務の総まとめとフィードバック
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	片山 立志
タイトル	貿易実務の本
出版社	成美堂

#### 参考書

著者名	日本貿易実務検定協会
タイトル	貿易実務ハンドブック
出版社	日本能率協会マネジメントセンター

年度	2024	学期	後期集中
科目名	課程演習 I	単位	2 単位
学科コース	国際貿易コース		
講師名	高橋 雅巳		

#### 講義概要

我々の最も身近な税金の一つである「所得税」についての知識と計算スキルについて学びます。所得税の基本である「10 種類の所得」分類と計算方法、所得控除、税額控除などの各種控除と、所得税の納付税額の計算まで、所得税の一連の計算方法について講義します。

#### 達成目標

各種所得の金額の計算、所得控除額の計算、納付税額の計算までの一連の所得税額計算についての実践的なスキル習得と申告納税制度や源泉徴収などの仕組みの理解を目標とします。

#### 学修成果

所得税の一連の計算や、給与所得者の年末調整、医療費控除や寄付金控除などの所得控除を受けるための確定申告手続きが独力で可能となります。

#### 事前学習

配布プリントの予習

#### 事後学習

授業内容の復習

#### 授業計画

回	授業計画
第 1 回	所得の分類と各種所得金額の計算①（利子所得、配当所得）
第 2 回	所得の分類と各種所得金額の計算②（不動産所得）
第 3 回	所得の分類と各種所得金額の計算③（事業所得）
第 4 回	所得の分類と各種所得金額の計算④（給与所得、退職所得）
第 5 回	所得の分類と各種所得金額の計算⑤（山林所得、譲渡所得）
第 6 回	所得の分類と各種所得金額の計算⑥（一時所得、雑所得）
第 7 回	10 種類の所得の総まとめと課税標準の計算
第 8 回	所得控除額の計算①（個人的事情を考慮した所得控除）
第 9 回	所得控除額の計算②（社会政策目的、経済政策目的の所得控除）
第 10 回	課税総所得金額の計算の総合演習（例題の演習と解答解説）
第 11 回	各種税額控除の意義の計算（例題の演習と解答解説）
第 12 回	納付税額の計算（例題の演習と解答解説）
第 13 回	所得税の申告、納付の手続、その他の手続等
第 14 回	定期試験受験のための総復習
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

#### 教科書

著者名	全国経理教育協会編
タイトル	令和 4 年版 入門税法
出版社	清文社

#### 参考書

著者名	
タイトル	
出版社	